

令和2年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)事業概要

社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター

事業名	事業実施目的・事業内容
認知症の当事者と家族を一体的に支援する支援プログラムのあり方に関する調査研究事業	<p>当センターでは令和元年度老人保健健康増進等事業において、オランダ、イギリスの事例を参考にしながら、日本国内における認知症の本人や家族に対する様々な支援事例を収集し、効果的な支援を実現する手法等のあり方を検討し課題整理を進めてきた結果、以下の方針を示した。</p> <p>①令和元年度の研究成果を活用しながら、モデル的に「日本版一体的(統合)ケアプログラム」として認知症の本人と家族両者への支援を組み合わせ実施し、その効果を検証する。モデル地域は都市部や地方など、地域の実状や環境の異なる5カ所程度を選出し、実施する。②モデルプログラム実施において介護者の介護負担度や認知症の症状等への影響などについて介入検証する。</p> <p>そのうえで、5カ所程度の地域を選定しモデル事業を実施し日本版一体的(統合)ケアプログラム実施のための手引きを作成することを目的とする。</p>
認知症介護基礎研修の効果的な実施方法に関する調査研究事業	<p>本事業は、全国の認知症介護従事者の全てが基礎的な知識を有し、さまざまな勤務形態の従事者への研修機会を確保する観点から①認知症介護の初任従事者が受講しやすく、学習効果の高い認知症介護基礎研修体制の確立と②認知症介護の動向を踏まえた最新かつ効果的な研修カリキュラムやeラーニングコンテンツの検討を目的としている。具体的には有識者および認知症介護教育の専門家から構成される検討委員会により研修体制、カリキュラムの課題と改善案を検討し、研修カリキュラムおよび教育コンテンツの改訂によって受講率向上に資する認知症介護基礎研修体制の構築を行う。</p>
認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業	<p>認知症介護実践者・リーダー・指導者養成研修のそれぞれ及び研修体系全体に対して、アウトカム評価の観点から研修の効果や意義等を明らかにする。そのため、①実践者・リーダー研修の効果を中心とした介護保険施設・事業所調査、②各層の研修に対するアウトカム指標を含む評価方法・評価指標の策定、③指導者養成研修修了者の活動実態調査及び活動好事例の収集・整理を行い、とりまとめた結果を周知する。</p>
認知症カフェにおける新型コロナウイルスの影響と緊急事態宣言等の状況下における運営のあり方に関する調査研究事業	<p>認知症施策の一環として設置推進された認知症カフェは、全国で7,000カ所まで普及しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策の一環として、全国各地で中止を余儀なくされている状況が報告されている。わが国の認知症カフェの持続的な推進に当たってその影響や課題を調査し対応策を講じるための検討が早急に求められている。そこで、本研究事業は下記の目的をもって実施する。</p> <p>①認知症カフェ中止の影響や課題等の実態を調査により明らかにする ②調査の過程において、継続的な実施に向けオンライン、手紙、電話等を用いた事例、対面実施のための工夫をしている事例等を収集し、その効果や運営方法を分析し報告書としてまとめる ③加えて、インターネットを使ってそれぞれの参加者の顔を画面上で見ながら会話ができる オンラインコミュニケーションツール(例:「Zoom(ズーム)」等)を活用し導入に関するモデル事業を実施し実装に対する効果や課題を把握する ④実態調査、好事例の分析やモデル事業の結果を踏まえ、簡易に活用・運用できる手引書を作成する。</p>